令和８年６月１０日（水）
土地改良課　　農業基盤整備グループ
担当：　　増田・嘉田（内線3848）
ダイヤルイン　０８７－８３２－３４３８

満濃池にて「令和８年度　初閘抜き奉告祭」が斎行されます。

標記につきまして、別添のとおり満濃池土地改良区から情報提供がありましたので、お知らせします。

記

１．概要

満濃池は大宝年間（７０１～７０４）に築造されたと伝えられるため池で、弘仁１２年（８２１）には弘法大師空海が改修したことで有名です。

その後、何回も改修を重ね、昭和３４年には堤防を６m嵩上げした結果、貯水量が一挙に倍増して現在の１，５４０万トンとなり、農業用ため池としては国内で最大級の規模を誇っています。

このゆる抜きにより、最大毎秒５トンの水が丸亀平野の 3,000ha の水田を潤し、一斉に田植えが始まります。中讃地域の初夏の風物詩となっています。

２．主催者

満濃池土地改良区
理事長　黒木　保

３．日時

令和８年６月１５日（月）
　１０：００　神野神社にて神事
　１１：００　ゆる抜き

４．場所

仲多度郡まんのう町神野　満濃池

５．出席予定者（式典）

池田県知事ほか約７０人

６．問い合わせ先

満濃池土地改区
　　電話：０８７７－７５－３１５７

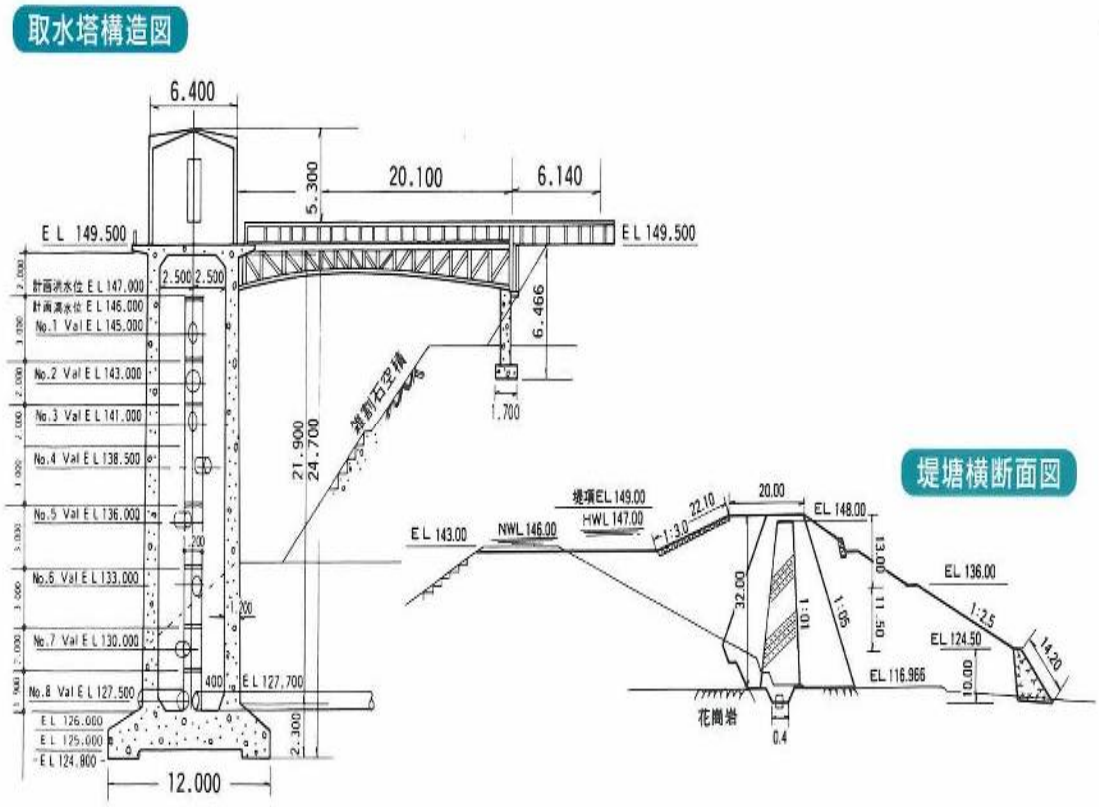
満　　濃　　池

形　式	土堰堤拱型（どえんていきょうがた）	貯 水 量	15,400,000 ㎥
堤　高	32.0m	満水面積	138.5 ha
堤　長	155.80m	直接流域	1,280 ha
堤体積	218,000 ㎥	間接流域	8,610 ha（財田川 1,230 ha／土器川 6,700 ha／転　石 680 ha）
標　高	堤 149.00m／満水位 146.00m／洪水位 147.00m		
法勾配	上流側 3.0 割／下流側 2.5 割		

取水塔及び樋管

取水塔	高　さ	30m	基礎直径	12m	塔下部直径	7.4m	塔上部直径	6.4m
	塔内径	5m	吸水管径	⌀800	吸水管数	8 か所		
底樋管	延　長	197m	勾　　配	1/100	断面巾	1.2m	高　　さ	1.5m
	形　式	隧道	放水量	毎秒 5 ㎥				

（吸水管の開閉：第 1,8 孔は手動　第 2～7 孔は電動）



和年号（年）	西暦（年）	主　な　出　来　事
大宝年間	701～704	讃岐の国守道守朝臣が創築。
弘仁　9	818	洪水により堤防が決壊。
〃　12	821	朝廷の築池使、路ノ真人浜継が派遣され復旧に着手したが容易に成らず、あらためて築池別当として空海（弘法大師）の派遣を要請し、この年の７月わずか２ヶ月余で再築。
仁寿　1	851	洪水により堤防が決壊。
〃　2～3	852～853	讃岐国守、弘宗王が復旧。
元暦　1	1184	５月１日、洪水により堤防が決壊。 この後、鎌倉、戦国時代の争乱期を含めた約450年間は復旧されないまま荒廃にまかせられ、池の中は「池内村」となる。
寛永5～8	1628～1631	豊臣秀吉の天下統一後大平の世となり、徳川家光の時、讃岐領主生駒家４代高俊が家臣の西嶋八兵衛に命じ再築。 水掛かりは３郡44カ村35,814石に及び当時の讃岐総石高の約１/６を占めた。
嘉永2～6	1849～1853	当時、樋管（ゆる）は木製であったため、寛永８年の再築後も底樋の伏替が６回、堅樋又は櫓の仕替は12回に及んだが、この時底樋を木製から石造りとする。
安政　1	1854	７月９日、大地震により石造りの底樋がゆるみ堤防が決壊。 幕末の混乱期で、復旧が遅れたため榎井村の庄屋、長谷川喜平治は私財を投じて東奔西走したが志半ばで死去。
明治2～3	1869～1870	高松藩の松崎渋右衛門、倉敷県の参事島田泰雄らの支援のもと、榎井村の長谷川佐太郎、金蔵寺の和泉虎太郎らの尽力により復旧。この時堤防西隅の大岩に石穴をうがち底樋とする。 （貯水量5,846千㎥、役夫144,900人、工事費4,073円）
〃　31	1898	堅樋、櫓の改修（工事費10,300円）
〃　38～39	1905～1906	第１次嵩上（0.87m）及び余水吐改修。 （貯水量6,678千㎥、工事費16,761円）
大正　3	1914	配水塔新設（工事費18,900円）
昭和2～5	1927～1930	第２次嵩上工事（1.5m）及び財田川からの承水隧道新設工事（400m）等を県営事業で実施（貯水量7,800千㎥、工事費428,700円）
〃　15～34	1940～1959	昭和14年の大干ばつを契機に第３次の嵩上工事（6.0m）及び土器川より取水するための天川導水路工事（4,668m）を県営事業として実施し、貯水量は15,400千㎥と倍増。（工事費543,327千円）
〃　28～44	1953～1969	満濃池用水の有効利用のため、別途県営金倉川沿岸用水改良事業により、幹線水路の整備を行う。（工事費639,122千円）